



川崎重工業 株式会社

モーターサイクル&
エンジンカンパニー

**KAWASAKIのデザイン哲学をカタチに。
いち早く2D/3Dデザインのデジタル化を推進。
Wacom Cintiq Pro 32を新たに導入し業務効率向上。**

川崎重工業株式会社 モーターサイクル&エンジンカンパニー

1878年に開設された川崎築地造船所に始まり、陸・海・空から宇宙までその事業フィールドを広げ、常に革新的な製品を世に送り出してきた重工業メーカー川崎重工業株式会社。その中で、世界に名だたるKAWASAKIブランドのオートバイを始めとするモビリティ製品を開発するのが、モーターサイクル&エンジンカンパニーです。そのデザインの現場で、ワコムの液晶ペンタブレットWacom Cintiq Proが活用されています。

www.kawasaki-cp.khi.co.jp

いち早くデジタルツールの可能性に気づき、 全デザイナーに液晶ペンタブレットを導入

船舶や航空機、鉄道から工場プラントまで幅広い事業を手掛け、日本を代表する重工業メーカーである川崎重工業株式会社の中で、オートバイを始めとするモビリティ製品の開発を手掛けているのがモーターサイクル&エンジンカンパニーです。

二輪に限らず、四輪のユーティリティ・ビークルやジェットスキー®など、同カンパニー製品すべてのデザインを行っているデザイン部スタイリング課では、デザイナーすべてに1人1台の液晶ペンタブレットを導入し、業務に活用しています。

シニアデザイナーの澁田祐さんが入社した15年前には紙とマーカーを使ってデザインスケッチを行っていましたが、ペンタブレットIntuos3の導入をきっかけにデザイン環境のデジタル化が進み、10年程前にはすべてのデザイナーに液晶ペンタブレットが行きわたる体制となったといえます。

「当初はデザイナーもデジタル肯定派・アナログ至上派に分かれていましたが、液晶ペンタブレットCintiq 21UXを3台ほど導入したところ、部署内で取り合いになるくらい高評価で、そこからいっしょにデジタル化が進みました」

現在ではCMF(カラー・マテリアル・フィニッシュ)課など、スタイリング課以外の部署でも液晶ペンタブレットが活用されるようになり、2019年には新たにWacom Cintiq Pro 32が導入されています。



デジタルツールを活用することで複雑化した デザインに対応する造形力を

デザイン業務のデジタル化は、業務を効率化するだけでなく、個々のデザイナーのレベルアップを後押しする効果もあると、デザイナーの長瀬実希さんはいます。

「クレイモデルを作ると、絵に描いたデザインが立体として成立していないことがあります。熟練のデザイナーは多くの経験により、頭に物の形が入っているのですが、スケッチの過程で簡単な3Dモデリングをすることで私たち若手も形を捉えやすくなりました。」

デジタルツールを活用することで手戻りの回数が減り、デザイナー自身の造形力と造形の精度がアップしていると、濹田さんも感じているそうです。

「オートバイの意匠部品であるカウリングひとつとっても、昔と比べて構成が複雑化しているので、絵では描き切れない部分があります。クレイモデルを元に3Dデータを作ると辻褄が合わない部分が出てくるので、その都度、修正していくのですが、スケッチを描くデザイナー自身が3Dを活用することで、その作業の往復を減らすことができます」

同課に配属された新人スタイリングデザイナーの木下晃さんは、デザイナーは紙に絵を描くだけではなくコミュニケーションが大事であると感じたといいます。木下さんは、最新のWacom Cintiq Pro 32を使用していますが、入社するまで液晶ペンタブレットを使ったことはありませんでした。

「画面が大きいので長いストロークを描けますし、ツールパレットを広げても邪魔にならないので作業しやすいです。Wacom Flex Armは、上司にデザインを見てもらうときに大画面を見やすい角度に動かせるので、コミュニケーションにも便利です」

デザインに関わる関係者が1つのフロアにまとまっているので、ちょっとした相談などは直接、画面を見せて説明する方が効率的です。

未来に繋がる革新のDNAと揺るがない KAWASAKIのデザイン哲学

近年、モビリティの世界ではEV（電気自動車）の普及や自動運転の実用化など様々な技術的変革が起きています。その渦中にある同カンパニーも、様々な可能性を見据えて日々の開発を進めています。

たとえばEVの場合、各コンポーネントがスタイリングデザインに与える影響は少なからずありますが、タイヤが2つあって、人が乗るという基本形が同じなので、デザインが大きく変わる事はありません。弊社には「型破りであること」「精悍であること」「こだわりがあること」という揺るぎないデザイン哲学がありますので、そこに時代にあったデザインテーマを反映しつつ、他のどのメーカーとも似ていない製品を作り続けます」と濹田さんは力を込めます。

いち早くデザイン業務に液晶ペンタブレットを取り入れたように、同社の長い歴史の中で継承されてきた「革新」のDNAは、これからどのメーカーとも異なるKAWASAKIブランドの製品を世に送り出していくに違いありません。そのデザインの現場で、ワコムの液晶ペンタブレットがデザイナーを支え続けます。



資料請求、ならびに製品に関するお問い合わせは、こちら

<https://tablet.wacom.co.jp/biz-design/inquiry/>

株式会社ワコム

〒160-6131 東京都新宿区西新宿8丁目17番1号 住友不動産新宿グランドタワー31階

電話でのお問い合わせ／資料請求は ☎ 0120-056-814 / Tel.03-5337-6704 受付時間 9:00~12:00/13:00~18:00 (土・日・祝日を除く)

© 2020 Wacom Co., Ltd. All rights reserved.